

第２ 【事業の状況】

１ 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第３四半期連結会計期間における生産実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品 種 別	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	856	11.3
タッピンねじ	1,215	19.0
ボルト	3,137	17.0
座金組込ねじ	2,286	11.7
その他	570	35.7
合 計	8,065	16.2

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 当社グループの製品は主として社内製作を行っているが、一部協力工場において外注加工を行っており、上記の数値には外注生産高が含まれております。

(2) 受注実績

当第３四半期連結会計期間における受注実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品 種 別	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	830	9.2	261	5.6
タッピンねじ	1,176	△3.9	388	△31.7
ボルト	3,026	14.5	941	5.8
座金組込ねじ	2,234	3.8	729	3.2
その他	555	25.8	157	6.7
合 計	7,824	8.3	2,479	△3.2

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	843	10.0
タッピンねじ	1,199	8.0
ボルト	3,100	15.5
座金組込ねじ	2,259	9.1
その他	555	29.5
合計	7,958	12.7

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
日産自動車(株)	2,463	34.9	2,998	37.7
スズキ(株)	803	11.4	899	11.3

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国の成長等に牽引され、緩やかな回復基調でありましたが、円高の進行や厳しい雇用環境の下、不透明感を払拭できない状況が続きました。

当社グループの主要な取引先であります自動車業界におきましては、新興国市場の拡大、環境対応車や小型車の伸長等により回復の傾向にあります。

このような状況より、当社グループの売上高は自動車生産台数の増加を主要因に7,958百万円(前年四半期比12.7%増)となりました。また利益面では、原価低減活動の推進により、営業利益は306百万円(前年四半期は営業利益294百万円)、経常利益は276百万円(前年四半期は経常利益286百万円)、四半期純利益は161百万円(前年四半期は四半期純利益177百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の部については、流動資産が13,629百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,022百万円の増加となりました。固定資産は7,278百万円となり、前連結会計年度末に比べ234百万円の増加となりました。

負債の部については、流動負債が10,184百万円となり、前連結会計年度末に比べ528百万円の増加となりました。固定負債は5,883百万円となり、前連結会計年度末に比べ208百万円の増加となりました。

純資産の部については、株主資本が4,574百万円となり、前連結会計年度末に比べ512百万円の増加となりました。評価・換算差額等は86百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円の減少となりました。

少数株主持分は、177百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円の増加となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、第2四半期連結会計期間末に比べ656百万円増加し、4,566百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間末における営業活動による資金の増加は、993百万円(前年四半期比71.0%増)となりました。

これは主に、減価償却費が174百万円、売上債権の減少49百万円、たな卸資産の増加52百万円、賞与引当金の減少182百万円、仕入債務の増加648百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間末における投資活動による資金の減少は、235百万円(前年四半期比123.5%増)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出224百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結会計期間末における財務活動による資金の減少は、86百万円(前年四半期比16.2%減)となりました。

これは主に、長期借入れによる収入620百万円、長期借入金の返済による支出758百万円、短期借入金の純増減額59百万円等の資金の増加によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は69百万円であります。